

歴史散歩



わがまち
歴史散歩

市史編纂だより④

今回から4回にわたって、「池田の役場」について紹介します。

役場の歴史①

1町3村時代

個人宅の役場

江戸時代、庄屋などの役人たちの事務の拠点は、通常、役人自身の自宅であることがほとんどでした。明治に入っても、地方行政の仕組みや役人の名称はめまぐるしく変わるものの、やはり独立した役場を設けず、村の役人の自宅で事務を行って

いた村々が大半だったようです。明治22年（1889）、全国的に大規模な町村合併が行われました。池田市域でも、池田村が1村で池田町（ここでは「旧」池田町とします）に、他の村々は数カ村ずつが合併して細河村・秦野村・北豊島村へと、それまであった二十数村から、一挙に1町3村に集約されます。それに伴い、各町村で取り扱う事務も飛躍的に増大し、独立した役場が少しずつ整備されていったと考えられます。

「旧」池田町の役場

「旧」池田町の役場は、寺院や個人宅、小学校などを転々としていたようです。しかしながら、その詳細については、ほとんど分かっていません。具体的なことが分かるのは、大正2年（1913）のことです。それまであった、現在の新阪急ホテル池田寮（栄本町）北西隣にある「がんがら火」の備品収蔵庫（旧公益質屋建物）辺りから、同寮南入り口付近に新築移転されました。

今、その移転された場所に立ってみますと、阪急池田駅から、町の中心部からも少し離れた静かな場所です。とても町役場があった場所には思えません。しかし、ここは当時、北摂の基幹道路の一つ、能勢街道に面した立地で、今とは全く異なり、「旧」池田町でも大変なにぎわいを見せていた通りでした。



昭和3年に新築された木造2階建ての北豊島役場（万福寺所蔵『北豊島村誌』）

細河・秦野・北豊島村の役場

一方、新たに誕生した3村の一つ、北豊島村の役場は、明治22年4月、町村合併時に現北豊島小学校の西側に設けられました。

また、細河村と秦野村の役場も、最終的には、現在の細河小学校と秦野小学校に、それぞれ隣接して設けられたようです。しかし、残念ながら、その変遷を明確にたどれるような資料はもとより、建物の写真すら見つかりません。いずれの役場も昭和10年（1935）の1町3村合併による「新」池田町の誕生と同時に、その使命を終えることとなります。

（次号に続く）
村役場の資料や写真をお持ちの方はぜひご連絡ください。

問い合わせは社会教育課市史編纂
（☎753・2904）

ギャラリーコーナー

<p>【ギャラリーいけだ】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●坂井孝正個展 ～6/2月 ●伊澤友梨墨彩画展 6/4(水)～9月 ●フジタ忠個展「散策集」 6/11(水)～16月 ●中村幸枝絵画展 6/18(水)～23月 ●夏色・染展（浜野生久） 6/25(水)～30月 	<p>【開館時間】 10：00～19：00（最終日は16：00まで）</p> <p>【休館日】 火曜日</p> <p>【入館料】 無料</p> <p>【使用料】 ギャラリーいけだ 5万円（展示販売不可） ギャラリーVEGA 15万円（ブロックの分割使用＝7・10万円＝、展示販売も可）</p> <p>【使用期間】 水～翌週月曜日の6日間</p> <p>【申し込み】 使用希望月の1年前から</p> <p>使用申し込みは 財団法人市民文化振興財団 （☎750・3333）</p>
<p>【ギャラリーVEGA】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●遊・織・染・色 ～6/2月 ●手作りハウス 6/4(水)～9月 ●第5回大阪空港カルチャースクール・箕面支部グループ絵画展 6/4(水)～9月 ●第28回裸婦クロッキー展 6/11(水)～16月 ●レ・ピュティア展 6/18(水)～30月 	

役場の歴史・役場の仕事ぶり

小ぶりな「旧」池田町役場

前回、昭和10年(1935)に1町3村が合併して「新」池田町が発足するまでの役場を紹介しました。今回は少し時代を戻して、合併前「旧」池田町の、大正2年(1913)に建てられた役場のようすをのぞいてみましょう。

役場の敷地は1000余坪(約330平方尺)。やや広い個人宅程度といったところでしょうか。1階には職員執務室、町長控室、宿直室や電話室など、2階には議場に充てら



▶大正終わりころの「旧」池田町役場(栄本町)

れた大広間、また、地下には小使室や書類倉庫などがありました。

少人数の職員

大正7年当時の状況を記した資料によれば、職員は「事務の許す限り(勤務)時間の内外を問わず、即日」に処理し、他の係の事務でも急ぎであれば、臨時に応援、殊に税金滞納の整理は職員全員一致で改善に向けて努力している」とあります。

このときの「旧」池田町の職員は町長以下わずか12人。もちろん、現在とは仕事の範囲や内容も異なりますので、単純には比較できませんが、それでも、当時の「旧」池田町の人口約9千400人に対する職員数としては、少ない印象を受けます。その分、臨機応変に業務を補完しあっていたようで、近年問題になっている「縦割り業務」などはとてもいっていられたかったことでしょう。また、町民に接するときは、「通

常は各係の所定の場所」で対応し、特に重要なことなどは応接室で対応する。「子供などにも分るように平易に説明し、且つ先着順を誤らないよう注意している」としてあります。いつの時代も住民への対応の基本は変わらないようです。



町長・助役らが並ぶ「旧」池田町役場の議場(『故大阪府会議員原田長治を偲ぶ』より転載)

名誉職の町長

ところで、この大正7年当時の彼らの月額給与は、助役の38円が最高で、半数の6人は20円以下。町長は給与ではなく報酬で年額2000円。これは、このときの町長が名誉職だったためで、月額に換算すると17円ほど。職員の中では、ほぼ最低ランクの金額でした。

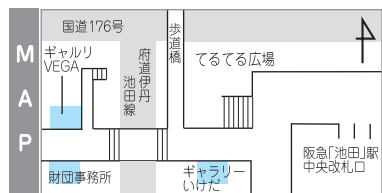
ちなみに当時、阪急電車の池田～梅田間の運賃は18銭、銭湯は4銭、かけそば一杯4銭、ビール大瓶31銭。もしも、毎日、かけそばを食べてビールを飲み、銭湯に入って、時折梅田へ行ったとしたら、町長の報酬では、足りなくなってしまうですね。

(次号に続く)

※村や町役場の資料や写真をお持ちの方はぜひご連絡ください。

問い合わせは社会教育課市史編纂(☎753・2904)

ギャラリーコーナー



【ギャラリーいけだ】

- 第7回古橋正二風景展 7/2(水)～7月
- 原裕子作陶展 7/9(水)～14(月)
- 一紗和・14歳一ひとり書展 7/16(水)～21(祝)
- 工芸ものづくり展北摂地区/社大阪工芸協会 7/23(水)～28(月)
- 第6回井関憲子個展～海鳴りを描く～油絵 7/30(水)～8/4(月)

【ギャルリVEGA】

- 的場二子水彩画展 7/2(水)～7月
- 安井寿磨子「柔らかな春の海」出版記念展 7/9(水)～14(月)
- 第8回ACF川西写真展 7/16(水)～21(祝)
- 工芸ものづくり展北摂地区/社大阪工芸協会 7/23(水)～28(月)
- とんぼ玉・ガラスアクセサリー/木彫・(刻書)2人展 7/30(水)～8/4(月)
- 古本有理恵銅版画展 7/30(水)～8/4(月)

【開館時間】10:00～19:00(安井寿磨子展は18:00まで。最終日は16:00まで)

【休館日】火曜日

【入館料】無料

【使用料】

ギャラリーいけだ 5万円(展示販売不可)
ギャルリVEGA 15万円(ブロックの分割使用=7・10万円=、展示販売可)

【使用期間】水～翌週月曜日の6日間

【申し込み】使用希望月の1年前から

使用申し込みは
お問い合わせは市民文化振興財団
(☎750・3333)

歴史散歩

わがまち 歴史散歩

市史編纂だより⁴³

役場の歴史③

池田町から池田市へ

四つから一つの役場へ

「役場の歴史①」の最後で少し触れましたが、昭和10年（1935）8月10日、「旧」池田町と細河・秦野・北豊島村の3村が合併し、現在の池田市域とほぼ同じ大きさの「新」池田町が誕生しました。これに合わせて役場も統合・移転され、それぞれの町や村ごとに置かれていた役場は閉鎖されました。

これら閉鎖された役場は、その後



▶「旧」池田町役場を利用した大阪府の健康相談所（昭和19年以前）

どうなったのでしょうか。現在の新阪急ホテル池田寮付近（栄本町）にあった「旧」池田町の役場は、役場としての役割を終えた後も、大阪府の健康相談所、池田職業紹介所、食糧公団、池田市労働会館などと、昭和40年代まで公共施設として利用されていたことが確認されています。

しかし、ほかの三つの村の役場がその後どうなったかは、残念ながらはっきりしたことは分かっていません。

病院の建物を利用して

「新」池田町の役場は、ほぼ今の市役所（城南1丁目）のところに設けられました。元私立病院の建物を利用したもので、三角屋根に玄関前の車寄せを備えた、モダンなものでした。大正10年（1921）ごろに開院したこの病院は、主に産婦人科を専門とし、当初から全家庭が見える病室やX線などを備え、建坪500余坪（約1650平方メートル）、敷地2300余坪の規模を誇っていました。昭和8年に閉鎖されると、早くも町当局側によって買収の話が浮上。次期役場として早い段階から目を付けられていたようです。この元病院だった役場が、まさしく、現在の池田市役所の直接のルーツといえるでしょう。

昭和14年（1939）4月29日、「新」池田町は大阪府下で6番目に市制を施行しましたが、その際にも

◀「新」池田町時代の役場



新たな庁舎を建てることなく、引き続き、この元病院の建物が市の庁舎として使用されています。

町はずれから中心に

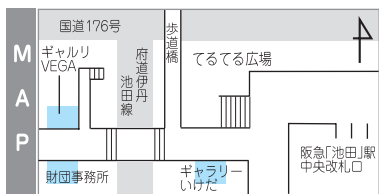
ところで、今でこそ、この場所は池田市の中心部に位置していますが、「旧」池田町のころは、一面に田畑が広がる場所でした。

それから約70年。庁舎の位置はほぼこの場所のまま現在に至っていますが、むしろ、時代とともに、近隣市町村の中でもその好立地は目立っているといます。庁舎をここに選定した当時の人たちは、ぜひぶん先見の明があったといえるかもしれません。（次号に続く）

※村・町役場の資料や写真をお持ちの方は、ぜひご連絡ください。

問い合わせは社会教育課市史編纂（☎753・2904）

ギャラリーコーナー



【ギャラリーいけだ】

- 第6回井関憲子個展 ～8/4(月)
- 奥畑司油彩展 8/6(水)～11(月)
- 山初律子写真展 一小狐の舞う島でー 8/13(水)～18(月)
- 芝君江陶芸展 8/20(水)～25(月)
- 新田ゆき子個展vol.2 8/27(水)～9/1(月)

【ギャルリVEGA】

- とんぼ玉・ガラスアクセサリー/木彫（刻書）二人展 ～8/4(月)
- 古本有理想銅版画展 ～8/4(月)
- くむーぶ）クラフト三人展 8/6(水)～11(月)
- スペイン紀行（しばた幸子） 8/6(水)～11(月)
- 櫻井聡水彩画展 8/13(水)～18(月)
- 大阪大学美術部夏展 8/13(水)～18(月)
- 野村和男作品展 8/20(水)～25(月)
- 第8回深山会会員展 8/27(水)～9/1(月)

【開館時間】 10：00～19：00（最終日は16：00まで）

【休館日】 火曜日

【入館料】 無料

【使用料】

ギャラリーいけだ 5万円（展示販売不可）
ギャルリVEGA 15万円（ブロックの分割使用＝7・10万円＝、展示販売可）

【使用期間】 水～翌週月曜日の6日間

【申し込み】 使用希望月の1年前から

使用申し込みは
（財）いけだ市民文化振興財団
（☎750・3333）

役場の歴史④

池田市時代

公会堂を間借りして

前号で紹介したように、昭和14年（1939）に市制を施行した後も、庁舎は池田町役場の建物をそのまま引き継いだため、手狭になっていました。しかし、当時の世の中は



▶3代目庁舎（手前2階建て）と公会堂（右手奥）。道路は国道176号（昭和36年）

戦時体制が強化されつつあり、庁舎を新たに設けることはできませんでした。そこで、同10年に建築されたばかりの公会堂（城南1丁目）を2代目の市庁舎として、利用することになりました。同16年6月のことで

この公会堂は、織維業「田村駒」の創始者である初代田村駒治郎の遺志による寄付金で建てられたもので、中2階を有する鉄筋2階建てに、数々の近代的設備を備えた北摂でも有数の建物でした。

庁舎を建てる

池田市として初めて庁舎を建てたのは、結局、市制施行から10年以上を経た、戦後の昭和25年（1950）のことです。3代目となる市庁舎は、木造2階建てで、国道176号に面した、現在池田駅前公園（菅原町）の場所に新たに建てられました。

ちなみに、それまで間借りしていた公会堂は新装され、再び市民に幅広く映画や集会、講演会などの会場として開かれることになりました。

火鉢片手

菅原町にあった3代目の庁舎で勤務した経験のある現役職員も、ずいぶんと少なくなっています。当時の話を聞くと、冬は石炭ストーブでは暖が足りず、

火鉢に手をかざしながら、また、夏は開け放った国道に面した窓からのほこりを払いながら、うちわを片手に、時にはステテコ姿で奮闘していたこともあったということです。

なお、昭和34年に増築された3代目の庁舎の鉄筋部分は改装され、現在、中央公民館として利用されています。

現市合同庁舎は4代目

そして、今日、目にする7階建ての市役所は、大阪府と池田市の合同庁舎で、昭和48年（1973）に竣工しました。石油ショックに続く物価高騰が起きたのはこの年の末。幸運にもわずかな差で影響を免れ、5月1日に開庁。市役所としては4代目の建物です。公会堂を取り壊した跡地に建てられたこの庁舎は、当時、市内で一番高層の建物でした。

余談ですが、同22年から同50年まで7期28年という長期にわたった故武田義三元池田市長は、その任期中に2回も庁舎が建て替わり、3つの庁舎で執務した経験をもつ、大変珍しい市長といえます。

村や町役場のほか、池田のまちに関する、さまざまな写真や資料を探しています。お持ちの方はぜひご連絡ください。

問い合わせは社会教育課市史編纂
(☎753・2904)

ギャラリーコーナー

MAP: 国道176号, 府道伊丹池田線, 池田駅前中央改札口, 財団事務所, ギャラリーいけだ

<p>【ギャラリーいけだ】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●新田ゆき子個展vol. 2 ~9/1(月) ●汪洋洋画展 9/3(水)~8(月) ●陶と絵と私展 (中谷悦子) 9/10(水)~15(祝) ●橋詰咲子水彩画展 9/17(水)~22(月) ●写生会水彩画展 (増井直人) 9/24(水)~29(月) 	<p>【開館時間】 10:00~19:00 (最終日は16:00まで)</p> <p>【休館日】 火曜日</p> <p>【入館料】 無料</p> <p>【使用料】 ギャラリーいけだ 5万円 (展示販売不可) ギャラリーVEGA 15万円 (ブロックの分割使用=7・10万円=、展示販売も可)</p> <p>【使用期間】 水~翌週月曜日の6日間</p> <p>【申し込み】 使用希望月の1年前から</p> <p>使用申し込みは (財)いけだ市民文化振興財団 (☎750・3333)</p>
<p>【ギャルリVEGA】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●第8回深山会会員展 ~9/1(月) ●宝塚日曜絵画クラブ絵画展 9/3(水)~8(月) ●上田房クバージュ・アン・フォルム&オンリーバッグコラボレーション展 9/10(水)~15(祝) ●木々の自然を描く-久保田敬英展- 9/10(水)~15(祝) ●第8回グループ“翔”展 9/17(水)~22(月) ●パウエルンマーレイ作品展 (中田久子) 9/24(水)~29(月) 	

歴史散歩

わがまち 歴史散歩

市史編纂だより 45

『新修池田市史』はこれまで第1巻(地理・考古・古代・中世編)、第2巻(近世編)、第5巻(民俗編)を刊行いたしました。しかし、それ以降、新たな資料の増加や調査の進展などで、若干の修正も生じてきました。ここでは、こうした資料や修正箇所について、簡単ですが触れてみたいと思います。

鉢塚古墳の墳丘

珍しい上円下方墳

明治5年(1872)、明治政府より、イギリスから大阪造幣局の冶金技師として招かれたウイリアム・ゴウランドは、職務の余暇を利用して日本各地にある古墳を調査しました。そして、イギリスに帰国後、



平成8年の鉢塚古墳測量図

「日本のドルメンとその築造者達」という論文を発表し、その論文の中に鉢塚古墳(鉢塚2丁目・五社神社境内)についても触れていました。

ゴウランドは鉢塚古墳を「テラスのある墳丘」と述べており、墳丘の中ほどにテラスを持つ2段築成の古墳であることを明記していました。しかし、問題はその古墳の形でした。ゴウランドは墳形について言及していませんでしたが、昭和37年(1962)に墳丘の竹林が伐採された折初めて墳丘測量が行われました。その結果、一辺40mの上円下方墳(方形の段の上に半球形を載せた形態)であると報告され(『池田市史』史料編①)、長い間、全国でも珍しい上円下方墳であるとして扱われてきました。

上円下方墳への疑問

一方、考古学者の末永雅雄博士は『古墳の航空大観』(昭和50年)を著し、そのなかで鉢塚古墳について、上円下方墳を思わせる形状は、長い年月の間に人為的加工があったため、なおよく検討を続けるべきであると、墳形について慎重な態度をとりました。

平成8年、池田市史編纂事業に伴い、再度、鉢塚古墳の測量調査を実施しました。完成した測量図をみると、たしかに上円下方墳にみえませんが、下段の方墳部分の一辺と石室の軸の方向がずれていること、しか

も、整然とした方墳をしていないことが分かり、方墳にみえるのは、末永博士が指摘したように、人為的加工によるものであるかと判断しました。そして、鉢塚古墳の墳形は、直径45mの円墳ではないかと推定するに至りました(『新修池田市史』第1巻)。

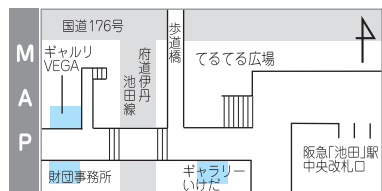
円墳と判明

平成13年、鉢塚古墳の東側隣接地で、住宅建築のため文化財保護法による届出があり、池田市教育委員会はこの届出に基づき試掘調査を実施しました。その結果、古墳の外側を円弧状にまわる幅7m、深さ80cmの溝を検出しました。この溝の存在から、鉢塚古墳は周溝をもつ円墳であることが分かりました。

鉢塚古墳の墳丘が上円下方墳ではないからといって、歴史遺産としての評価が下がったわけではありません。6世紀前半、二子塚古墳(井口堂1丁目)が造られた後、しばらくの間において6世紀末に、突如、巨大な石室を持つ円墳の鉢塚古墳が、さらに、これに継続して宇保猪名津彦神社古墳(宇保町)が造られます。これは、古墳時代後期末、池田地域で大きな変動があったことを物語っており、その解明の鍵は鉢塚古墳が握っているからです。

問い合わせは社会教育課市史編纂(☎753・2904)

ギャラリーコーナー



【ギャラリーいけだ】

- 「ヨーロッパの光と陰」松浦敏夫銅版画展 ~10/6月
- 猿渡士郎個展 10/8(水)~13(祝)
- 小川温子銅版画と水彩画展 10/15(水)~20(月)
- 土肥謙三日本画展 10/22(水)~27(月)
- 銅版画展—イタリア時間—波江野陽子 10/29(水)~11/3(祝)

【ギャラリーVEGA】

- 第31回彩赤会展 ~10/6月
- 安食愼太郎個展 10/8(水)~20(月)
- 手仕事三人展 10/22(水)~27(月)
- 近藤雄士「木の家具展」 10/22(水)~27(月)
- 江原和足展「北摂春秋」 10/29(水)~11/3(祝)

【開館時間】 10:00~19:00 (最終日は16:00まで)

【休館日】 火曜日

【入館料】 無料

【使用料】

ギャラリーいけだ 5万円(展示販売不可)

ギャラリーVEGA 15万円(ブロックの分割

使用=7・10万円=、展示販売も可)

【使用期間】 水~翌週月曜日の6日間

【申し込み】 使用希望月の1年前から

使用申し込みは
 (財)いけだ市民文化振興財団
 (☎750・3333)

歴史散歩

▶ 弥生時代中期ごろの宮の前遺跡遺構分布図



宮の前遺跡

変わっていく遺跡の評価

日本各地で遺跡の発掘調査が行われ、その調査成果により時代や遺跡に対する評価が変わってきています。『新修池田市史』第1巻で触れた宮の前遺跡も、近年の発掘調査でその評価を改めなければならなくなってきました。

わがまち
歴史散歩

市史編纂だより

一般に、弥生時代中期(紀元前1000年ごろから)。ただし、理化学的年代測定によれば、さらに2000年近くさかのぼるとされる)になると稲作の普及で食糧の確保が安定し、各地に大集落ができるようになったと考えられています。そして、猪名川流域の大集落として加茂遺跡(川西市)、勝部遺跡(豊中市)、田能遺跡(尼崎市)、そして本市の宮の前遺跡が挙げられています。

遺跡の発見と評価

宮の前遺跡は住吉2丁目から石橋4丁目、豊中市蛭池北町(豊中市域では「蛭池北遺跡」と呼称)に広がっています。昭和43年(1968)の中国自動車道建設に伴い本格的な発掘調査が行われ、弥生時代中期の竪穴住居跡、方形周溝墓(棺の周囲を四角く溝で囲んだ墓)、土壇墓、土器棺などの遺構が検出されました。これらの成果から、宮の前遺跡は猪名川流域に分布する大集落としてとらえられるようになりました。

居住域と墓域

現在まで宮の前遺跡で検出された弥生時代の遺構・遺物のうち、最も多いのは弥生中期ごろのもので、方形周溝墓は台地縁辺部に、竪穴住居は台地中央部に分布しています(上図参照)。最近の調査では台地の北の方でも確認されており、台地の中ほどから北側が居住域なのかも

りません。ただし、位置関係をみると、居住域と墓域が必ずしも明確に分けられているわけではありません。同じ猪名川流域の大集落とされる加茂遺跡では、環境が集落を二重に取り囲み、内壕の内部に大型建築物を中心とした居住域が、その外側に墓域が設けられています。

宮の前遺跡は大集落か

宮の前遺跡では、集落を取り囲む環境、集落の中心となる大型の建物は確認されていません。さらに、平成13年に豊中市教育委員会から刊行された「蛭池北遺跡」では、浅い谷を隔てた南側で3基の方形周溝墓が報告されています。

居住域と墓域が溝などで明確に分けられていないこと、環境や中心となる建物が認められないことなど、宮の前遺跡は集落としてのまとまりはあまり認められず、加茂遺跡と同じ大集落として扱うにはたまたまられません。

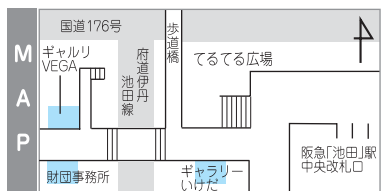
これからも発掘調査が続きます。近い将来、宮の前遺跡がどのような性格の集落であったのか、明らかにするものと思います。

★池田市史の刊行状況

『新修池田市史』第1巻3500円、第2巻4200円、第5巻4500円、第3巻(近代編)と第4巻(現代編)は編纂中。

問い合わせは社会教育課市史編纂(☎753・2904)

ギャラリーコーナー



【ギャラリーいけだ】

- 銅版画展 イタリア時間ー (波江野陽子) ~11/3(祝)
- 井上亜衛織絵展 ナインティ+5 11/5(水)~10(月)
- 河合絵一油彩展 11/12(水)~17(月)
- 祐紀油彩画展 11/19(水)~24(休)
- 中山光弘水彩画展 11/26(水)~12/1(月)

【ギャラリーVEGA】

- 江原和足展 ー北摂春秋ー ~11/3(祝)
- 楠井加奈植物水彩画miniグループ展 11/5(水)~10(月)
- ろうけつ草木染“Ki楽” 11/5(水)~10(月)
- 第2回聿の会“書”作品展 11/12(水)~17(月)
- それぞれの表現・水彩画三人展 11/12(水)~17(月)
- 玉本奈々展~Le monde de TAMAMOTO Nana~ 11/19(水)~24(休)
- ※11/22土13:00 アーティストトークatギャラリーVEGA 小吹隆文×玉本奈々を開催。
- 「遊・織・染色」展 11/26(水)~12/1(月)

【開館時間】 10:00~19:00 (最終日は16:00まで)

【休館日】 火曜日

【入館料】 無料

【使用料】

ギャラリーいけだ 5万円(展示販売不可)
ギャラリーVEGA 15万円(ブロックの分割使用=7・10万円=、展示販売可)

【使用期間】 水~翌週月曜日の6日間

【申し込み】 使用希望月の1年前から

使用申し込みは

(財)いけだ市民文化振興財団

(☎750・3333)



わがまち
歴史散歩

市史編纂だより④

池田氏の系図と実像（その1）

池田氏の出自

市民の憩いの場の一つとなっている池田城跡公園（城山町）は、かつて池田氏の居城があったところです。戦国時代、池田氏はこの地域で武力・財力・文化を誇った有力な一族でした。

ところで、当時の武士は自家の出自を高貴な身分と称する傾向があり

ました。先祖を天皇に求めた清和源氏（足利氏・武田氏・多田氏など）や桓武平氏（北条氏・織田氏など）、貴族の藤原氏にさかのぼらせた上杉氏などが代表的な例です。

では池田氏はどうでしょうか。それについて、池田氏には旧家に伝わったもの、宮内庁所蔵といわれるものなど複数の系図が確認されています（『池田市史』史料編①）。その多くは、古代氏族の紀氏に結びつけられています。ところが『新修池田市史』第1巻では、池田氏の出自は藤原氏であるとしています。

池田氏は藤原氏

そもそも系図は後世に作成される場合がほとんどで、リアルタイムの史料ではありません。そのため誤りや虚飾も少なくなく、系図を歴史資料として扱う際には、その当時の史料と突き合わせる必要があります。これを史料批判といいます。

藤原氏出身説も、この手続きを経た上で提示されたものです。勝尾寺（箕面市）に伝わる鎌倉時代の弘安7年（1284）に作成された文書の署名に「右近将監藤原政長」とあり、その端裏書（文書を折り畳んだ状態でも内容・差出人などが判別できるように記したメモ）では政長のことを「池田右近尉」と記しています。よって池田氏は血縁に由来する姓を藤原、地縁に由来する苗字を池田としていたことが判明したのです。

なお、政長の名を系図から探しても、一切見つけることはできません。

もう一つの池田氏

ところで池田を苗字とした武士に、近世の岡山藩主があります。美濃国池田荘（岐阜県池田町）の出身と考えられており、織田信長の天下統一事業に付き従った恒利の代から台頭した一族です。実はこの一族と池田氏を同族とする系図が存在します。

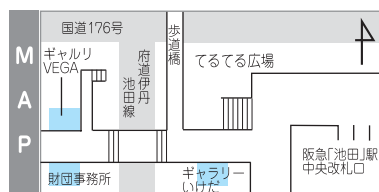
しかし両者の関係性を裏付ける確実な史料はなく、おそらく事実ではないようです。かたや戦国時代に活躍したが近世まで生き残れなかった一族。かたや戦国末期に成り上がり、藩主の座にまで昇った一族。両家の歴史の空白を埋め合わせ、一方の経歴にはくを付けようと意図的に創作されたものか。それとも安直に結びつけられたものなのか。さまざまな可能性を念頭に置きながら、系図の内容を吟味しなければなりません。

しかし、内容が歴史的事実と異なっていたとしても、系図の持つ史料価値が全く損なわれるわけではありませぬ。なぜならその内容に誤りや虚飾があったとしても、それが生み出される事情は確かに歴史の中に存在したはずだからです。

さて今回は池田氏の全盛期、戦国時代の当主とされながらも、謎多き人物・久宗に注目します。

問い合わせは社会教育課市史編纂
（☎7533・2904）

ギャラリーコーナー



【ギャラリーいけだ】

- 中山光弘水彩画展 ~12/1(月)
- 出口彰水彩画展 12/3(水)~8(月)
- 山田啓治「鉛筆画展」 12/10(水)~15(月)
- 桃花・柿洪染作品展（筒井通江） 12/17(水)~22(月)

【ギャラリーVEGA】

- 「遊・織・木・布」展 ~12/1(月)
- 富永俊子作品展 12/3(水)~8(月)
- 手作りグループ「輝き」展 12/3(水)~8(月)
- 池田市美術展VEGA賞受賞者展 12/11(木)~15(月)
- 大阪青山大学健康こども学科・大阪青山短期大学幼児教育保育科 第3回「アソビと造形」展 12/17(水)~22(月)

【開館時間】 10:00~19:00 (VEGA賞

展は18:00まで、最終日は16:00まで)

【休館日】 火曜日、12/23(祝)~1/6(火)

【入館料】 無料

【使用料】

ギャラリーいけだ 5万円 (展示販売不可)

ギャラリーVEGA 15万円 (ブロックの分割

使用=7・10万円=、展示販売可)

【使用期間】 水~翌週月曜日の6日間

【申し込み】 使用希望月の1年前から

使用申し込みは
（助）いけだ市民文化振興財団
（☎750・3333）



市史編纂だより

池田氏の系図と実像(その2)

「池田久宗」の系譜

前回、池田氏の出自について述べるなかで、系図を読む際に必要な「史料批判」について説明しました。今回は、その点を掘り下げてみます。複数ある池田氏の系図のうち、応仁の乱にも参戦した池田氏の中興の祖・充正の孫として、久宗の名を挙げるものがあります。それらは共通して、久宗前後の系譜を【図1】のように描いています。しかし『新修池田市史』第1巻では、【図2】のように系図とは異なる系譜関係を推測しています。それこそが、史料批判の成果でした。

【図1】系図より抜粋
 筑後守 民部丞 筑後守 充正 正棟 久宗 三郎五郎 長正 勝正

【図2】『新修池田市史』による復元
 筑後守 筑後守 充正 貞正 久宗 信正 長正 勝正

【図3】『細川両家記』の記述
 筑後守 彈正忠 貞正 三郎五郎...某

系図によれば、久宗の父・正棟は永正5年(1508)、細川高国方の池田城攻撃により自害したとされます。ここで、ほぼ同時代に作成され、信びよう性が高いとされる『細川両家記』を参照すると、そのとき自害したのは貞正で、その子は、実名は不明ながら三郎五郎と出てきます。系図に三郎五郎は久宗とあることから、『新修池田市史』では久宗を貞正の子と推定したわけです。

史料上の池田氏

しかしながら、系図以外の史料では、久宗の存在は確認されません。戦国時代の人名表記は、例えば「池田筑後守」のように「苗字十官途」の形やそれを略した「池筑」、または「池田三郎五郎」など通称でなされ、必ずしも実名は記されません。そこで、『細川両家記』から久宗が活躍したとされる時期の人名表記に注目し、池田氏の動向を追ってみます【図3】。

永正16年、池田貞正の遺児・三郎五郎は有馬で拳兵し、細川高国方を破ります。その功績により、高国と対立する細川澄元から豊島郡を拝領し、「彈正忠」の官途を許されます。以来、池田彈正忠は澄元方・晴元(澄元の子)方の武将として、大永6年(1526)までその名が確認されます。享祿3年(1530)からは晴元方として長年活躍します。しかし、池田筑後守が天文15年(1546)

に高国の後継者・氏綱に味方し、同17年に晴元によって殺害されます。『両家記』はこの事件を、「晴元に対する筑後守の長年にわたる忠節を無駄にした」と評しています。

謎の「池田久宗」

久宗については「両家記」の記述からは、①彈正忠⇨久宗、②彈正忠⇨筑後守⇨久宗、③久宗はいずれにも該当しない、の三つが考えられます。天文15年の文書に「池田筑後守信正」とあることから、遅くともそれ以降の筑後守は信正と確定されます。しかしこれ以外、判断材料となる史料は存在しません。したがって問題は、久宗と信正の関係をどう推測するかにかかってきます。

そこで再び系図に立ち帰ると、①彈正忠久宗から筑後守信正に家督が継承された【図2】、②彈正忠久宗が改称して筑後守信正となった、③正棟⇨久宗とは別系統の貞正⇨彈正忠⇨信正が家督を継承したなどの可能性が考えられますが、真実は謎です。

系図と実態との間には、混乱や食い違いが往々にしてみられます。池田氏の場合、主家である細川家の分裂に連動し、内紛を繰り返した複雑な歴史そのものに、その一因があったのかも知れません。

問い合わせは社会教育課市史編纂 (☎753・2904)

ギャラリーコーナー

<p>【ギャラリーいけだ】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●松浦涼子、佐々木晶子二人展 1/7(水)~12(祝) ●奥田美紀陶芸展 1/14(水)~19(月) ●吉祥・花のこぼ(土井英雄) 1/21(水)~26(月) ●絹絵の世界(久保義浩) 1/28(水)~2/2(月) 	<p>【開館時間】 10:00~19:00(「てぬぐい百年展」は18:00まで。最終日は16:00まで)</p> <p>【休館日】 ~1/6(火)、火曜日</p> <p>【入館料】 無料</p> <p>【使用料】 ギャラリーいけだ 5万円(展示販売不可) ギャラリーVEGA 15万円(ブロックの分割使用=7・10万円=、展示販売可)</p> <p>【使用期間】 水~翌週月曜日の6日間</p> <p>【申し込み】 使用希望月の1年前から</p> <p>使用申し込みは (財)いけだ市民文化振興財団 (☎750・3333)</p>
<p>【ギャルリVEGA】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●やさしい色鉛筆と淡彩画展(よみうり文化センター千里中央安芸教室) 1/7(水)~12(祝) ●庶民芸術の華ーてぬぐい百年展(浮田光治コレクション) 1/14(水)~19(月) ●京都きもの絵師とその仲間達展 1/21(水)~26(月) ●手づくり五人展 1/28(水)~2/2(月) ●第9回滝井孝舟展 1/28(水)~2/2(月) 	



豊島河原古戦場（箕面市瀬川付近か『池田町史』より）

池田氏の成長と戦乱

南北朝内乱と池田

日本列島において、全国規模で展開した最初の戦争は14世紀の南北朝内乱でした。後醍醐天皇の建武政権から離反した足利尊氏が、反乱の旗印に光明天皇を擁立して以来、約60年間にも及ぶ内乱状態となりました。軍勢が激しく移動したこの時期、西国街道が通っていた現池田市近辺でも軍事衝突がありました。中には戦局を左右する重要な戦闘も行われ、建武3年（1336）の豊嶋河原合戦は尊氏の九州逃亡のきっかけとな

わがまち
歴史散歩

市史編集だより

り、同年の呉庭合戦は尊氏の京都制圧に寄与しました。

この南北朝内乱の中から台頭したのが、池田氏です。貞治2年（1363）「足利義詮御教書」（『成箕堂文庫』）からは、戦乱時における池田氏の権益拡大の一端をうかがうことができます。

戦費の論理

藤原摂関家一族の九条家が持つ摂津国賀茂村（現川西市）の権益の半分について、「池田弾正藏人親政」が守護赤松光範から預けられたと称し、將軍足利義詮はそれを承認します。ここで池田親政の主張が容認された理由は、親政はあくまで戦費の名目で年貢を預かったのであり、戦争での勝利を至上命題とする幕府の意向に抵触するものではなかったからだと考えられます。

南北朝内乱に乗じ、池田氏は自己の権益を拡大し、勢力の基盤を築いていきました。それが単に武力ばかりではなく、戦費という戦時特有の論理により、上部権力の同意を得て達成された事実が注目されます。

戦国期の荘園侵略

再び乱世となった応仁・文明の乱（1467〜77）以降、池田氏の荘園侵略は加速します。領主側の記録にある「天下動乱以後は、池田が好き勝手に押領している」（『多門院日記』）との一文は象徴的です。池

田氏は周辺の有力武士とともに、文明10年（1478）には神社領の半分の領有を主張し（『多門院日記』）、翌年には摂津国における寺社・公家の領有権の否定を宣言します（『大乘院寺社雑事記』）。

実際に池田氏は、寛正2年（1461）に権益の否定を裁定されていた春日社領摂津国垂水西牧桜井郷（現豊中市）を、一方的に「押領」しました。領主側は池田氏の主家である摂津国守護細川氏に訴え、弁論が交わされます。領主側が寛正2年の判決を持ち出すことを想定済みの池田氏は、「天下一乱となったため、無理に押領したのであって、先の裁定とは別次元の問題だ」と弁解します。戦乱のために、やむを得ず荘園を侵略したというのです。

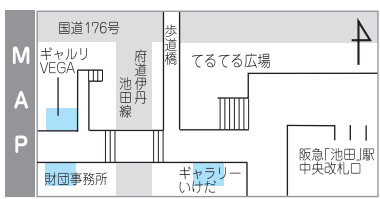
このように池田氏は、戦乱状況を利用した言動を用いて、権益拡大を図りました。しかし裏を返せば、その方法の有効性は、戦乱という特殊状況に限られたものともいえます。権益を維持していくためには、平時にも通用する論理をも別に持ち合わせておく必要があります。その点は次回紹介します。

★池田市史の刊行状況

『新修池田市史』第1巻3500円、第2巻4200円、第5巻4500円、第3巻（近代編）と第4巻（現代編）は編纂中。

問い合わせは社会教育課市史編纂（☎753・2904）

ギャラリーコーナー



【ギャラリーいけだ】

- 絹絵の世界(久保義浩) ~2/2月
- HIRO KUBO WORLD(久保義浩) 2/4(水)~9月
- 中林誠治展 2/11(祝)~16月
- 櫻井聡絵画展 2/18(水)~23月
- 吉田素子ボタニカルアート展5 2/25(水)~3/2月

【ギャラリーVEGA】

- 手づくり五人展 ~2/2月
- 第九回滝井孝舟展 ~2/2月
- 手織工房KiOKiG展 Part II 2/4(水)~9月
- 梅花女子大学短期大学部「生活の中の美・アート展」 2/11(祝)~16月
- 佐々木和子個展 2/18(水)~3/2月
- 第4回ておりーな作品展 2/25(水)~3/2月

【開館時間】 10:00~19:00 (最終日は16:00まで)

【休館日】 火曜日

【入館料】 無料

【使用料】

ギャラリーいけだ 5万円 (展示販売不可)

ギャラリーVEGA 15万円 (ブロックの分割)

使用=7・10万円=、展示販売も可)

【使用期間】 水~翌週月曜日の6日間

【申し込み】 使用希望月の1年前から

使用申し込みは
（助）いけだ市民文化振興財団
（☎750・3333）



池田城の庭園遺構（平成元年発掘調査）

池田氏の経営戦略

経済の発達した中世

「生産力を超えた信用経済の異常な発達」昨今の情勢にも当てはまるこの言葉、実は中世後期の日本の状況を語ったものです。中世は「為替」「相場」「株式」といった経済用語やそのシステムを生み出すなど、経済が発達した時代だったことが近年の研究で明らかとなりました。

池田氏が活躍したのはこのような時代でした。富裕で知られた池田氏は金融業を経営基盤の一つに置いていました。文正元年（1466）、池

わがまち
歴史散歩

市史編纂だより⁶⁰

田充政は利子収入だけで年間1万2000貫文、現代の金額に換算すると約12億円にも上ったと語っています（『蔭涼軒日録』）。その言に違わず、文明19年（1487）に池田氏の庭・倉を見物した奈良興福寺の僧政覚を驚かせたといえます（『政覚大僧正記』）。

債権と荘園代官

池田氏の経済活動の一つに、荘園経営への参画があります。それには債権を根拠としたものもありました。

中世後期、在地勢力の荘園侵略などで所定の年貢の確保が難しくなつた荘園領主は、一定額の年貢納入を条件に荘園の経営を代官に委ねました。この代官請負契約は荘園に権益を持つ人物の債務を処理する方法として、結ばれる場合もありました。

長禄年間（1457〜60）、摂津国垂水西牧桜井郷（現豊中市）の奉行延祐は干害のため年貢の徴納に窮し、桜井郷を抵当に池田氏から借入します【図】。寛正2年（1461）までに、同郷における池田氏の債権は400貫文（約4000万円）まで膨らみます。その間池田氏は代官として現地を実効支配していました。

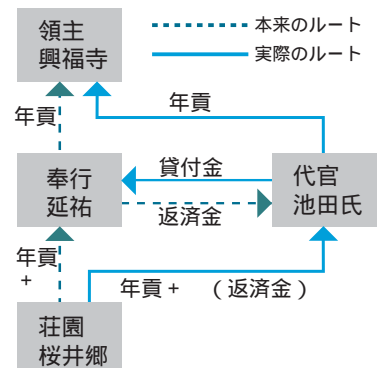
その事実を知った領主の興福寺側は訴訟を起こし、延祐は奉行の解任、池田氏は桜井郷の返還を裁定されます。ただこのとき、池田氏は「引違分」（補償金）として興福寺から300貫文を得ています。

代官職への執着

応仁・文明の乱をきっかけに戦乱の世となると、池田氏は再び桜井郷を実効支配します。にもかかわらず、文明8年（1476）、池田氏は興福寺に年貢を少しばかり運上します。しかし興福寺は受け取りを拒否します。この一見不可解なやりとりの裏には、両者の代官契約をめぐる攻防が隠されています。年貢運上は代官の行為そのものです。池田氏は不当な実効支配を正当な代官請負契約に転換することで、獲得した利権の定着をもくろんだわけです（『多門院日記』）。

戦乱に乗じた荘園侵略、高利貸しを通じた代官請負契約を状況に応じて使い分け、利権を獲得・維持し、それを元手にさらに金融など経済活動を広げる。武力のみによらないしたたかな経営戦略が、池田氏に莫大な利潤をもたらしたのでしょう。

問い合わせは社会教育課市史編纂（☎753・2904）



【図】長禄年間の垂水西牧桜井郷の年貢運上と貸借関係

ギャラリーコーナー

<p>【ギャラリーいけだ】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●吉田素子ポタニカルアート展5 ～3/2月 ●岡本善弘個展 3/4(水)～9月 ●二人展（陶芸・山口勝郎、写真・香西真也） 3/11(水)～16月 ●下平揚江作品展 3/18(水)～23月 ●第3回野村よしお個展 3/25(水)～30月 	<p>【ギャルリVEGA】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●第4回ておりーな作品展 ～3/2月 ●佐々木和子展 ～3/2月 ●大阪大学美術部「さよなら展」 3/4(水)～9月 ●生きる喜び 近藤幸一水彩画展 3/4(水)～9月 ●塚本龍個展 3/11(水)～16月 ●松尾博子「炭と花のアート展」 3/18(水)～23月 ●第3回いろいろの会絵画展 3/18(水)～23月 ●徳治昭童画展～ほっこりワールド～ 3/25(水)～30月
---	---

【開館時間】 10:00～19:00（近藤幸一水彩画展、塚本龍個展は18:00まで。最終日は16:00まで）

【休館日】 火曜日

【入館料】 無料

【使用料】
 ギャラリーいけだ 5万円（展示販売不可）
 ギャルリVEGA 15万円（ブロックの分割使用＝7・10万円＝、展示販売も可）

【使用期間】 水～翌週月曜日の6日間

【申し込み】 使用希望月の1年前から

使用申し込みは
 財団法人市民文化振興財団
 （☎750・3333）